

書ノ通タルニシ

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第七十七號布告ニ係ル)  
重罪裁判所管轄區劃別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施  
行ス

但治罪法第七十二條ニ從ヒシテ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ所又ハ數  
ヶ所開廳スヘシハイソツチ

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第七十八號布告ニ係ル)

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所管轄

東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所管轄

横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所管轄

新潟高田長岡新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所管轄

浦和熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所管轄

千葉水更津始審裁判所管轄ノ地方

栃木重罪裁判所管轄

栃木宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所管轄

前橋始審裁判所管轄ノ地方

茨城重罪裁判所管轄

水戸土浦始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪裁判所管轄

甲府始審裁判所管轄ノ地方

静岡重罪裁判所管轄

静岡、濱松始審裁判所管轄ノ地方

長野重罪裁判所管轄

松本、長野、上田始審裁判所管轄ノ地方

大坂重罪裁判所管轄

大坂、堺、奈良始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪裁判所管轄

京都、園部、宮津始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪裁判所管轄

神戸、姫路始審裁判所管轄ノ地方

和歌山重罪裁判所管轄

和歌山始審裁判所管轄ノ地方

滋賀重罪裁判所管轄

大津、彦根始審裁判所管轄ノ地方

徳島重罪裁判所管轄

徳島始審裁判所管轄ノ地方

岡山重罪裁判所管轄

岡山、津山始審裁判所管轄ノ地方

福井重罪裁判所管轄

福井始審裁判所管轄ノ地方

石川重罪裁判所管轄

金澤、富山、七尾始審裁判所管轄ノ地方

高知重罪裁判所管轄

高知、中村始審裁判所管轄ノ地方

愛媛重罪裁判所管轄

松山、高松、宇和島始審裁判所管轄ノ地方

長崎重罪裁判所管轄

長崎、佐賀始審裁判所管轄ノ地方

福島重罪裁判所管轄

福島始審裁判所管轄ノ地方

熊本重罪裁判所管轄

熊本始審裁判所管轄ノ地方

大分重罪裁判所管轄

大分、中津始審裁判所管轄ノ地方

鹿児島重罪裁判所管轄

鹿児島、宮崎始審裁判所管轄ノ地方

沖縄縣管轄ノ地方

函館裁判所管轄

函館始審裁判所管轄ノ地方

開拓使(札幌根室)本廳管轄ノ地方

青森重罪裁判所管轄

弘前始審裁判所管轄ノ地方

愛知重罪裁判所管轄

名古屋、岡崎始審裁判所管轄ノ地方

岐阜重罪裁判所管轄

岐阜始審裁判所管轄ノ地方

三重重罪裁判所管轄

安濃津、山田始審裁判所管轄ノ地方

宮城重罪裁判所管轄

仙臺始審裁判所管轄ノ地方

福岡重罪裁判所管轄

福岡、若松、平、白川始審裁判所管轄ノ地方

磐手重罪裁判所管轄

盛岡、磐井始審裁判所管轄ノ地方

山形重罪裁判所管轄

山形、米澤、酒田始審裁判所管轄ノ地方

秋田重罪裁判所管轄

秋田始審裁判所管轄ノ地方

廣嶋重罪裁判所管轄

廣嶋、尾道始審裁判所管轄ノ地方

山口重罪裁判所管轄

山口始審裁判所管轄ノ地方

島根重罪裁判所管轄

松江、濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取重罪裁判所管轄

鳥取、米子始審裁判所管轄ノ地方

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ布告候處

北海道函館始審裁判所管内ヲ除ク并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分従前ノ通其

所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管

轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第七十九號布告ニ係ル)

本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ

治安裁判所ニ於テ裁判スベキ處當分ノ内府縣警察署及其分署ニ

於テ裁判セシム可シ

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第八十號布告ニ係ル)

本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃改正

候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト必得ベシ

右布達候事太政大臣司法卿連署第二號布達ニカ、ル

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第八十三號布告ニカ、ル)

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ

商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未満ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルコトヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲

ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル

控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スベシ

第五章 商船内犯罪取扱

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事太政大臣農商務卿司法卿署名第六十五號布告ニ

カ、ル

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人ヨリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重

罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ

知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及ヒ事

四十七

實參考ト爲ルベキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルベシ但調書ヲ作ルヲ能ハザル時ハ第三條ニ記載セタル官吏ニ其申立ヲ爲スベシ  
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルベキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐節ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

第六章 陪席判事并補充判事

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事(太政官第四十六號布告第三項ニカ、ル)

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任レ候條此旨布告候事(太政官第五十五號布告ニカ、ル)

第七章 准現行犯

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得(太政官第四十六號布告第四項ニカ、ル)

第八章 檢察官起訴之變則

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限キリ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布告候事(太政官第五十四號布告ニカ、ル)

但本文ノ場合ニ於テ認廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

第九章 令狀并諸書式

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲

ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラ  
ス(太政官第四十六號布告第五項ニカ、ル)

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サ  
ル旨記載有之候トモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカ  
ラス(太政官第四十六號布告第七項ニカ、ル)

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ  
其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置  
場ニ入置クヘシ此旨布告候事(太政官第五十九號布告ニカ、ル)

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ  
令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可  
必得此旨相違候事司法省丙第二十號達ニカ、ル)

書式  
治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及宣讀

書式別紙ノ通り相定候條右ニ照準ス可シ此旨相違候事司法省丁第二

十八號達ニカ、ル)

用紙美濃ノ類 翰廊寸法凡 堅七寸五分 横五寸四分

送達書

<p>〔一〕送達スヘキ書名</p> <p>〔二〕同</p> <p>右使丁ヲ以テ〔何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某ヘ〕送達セシムル者也</p> <p>明治年月 日</p> <p>〔何〕裁判所</p> <p>書記</p> <p>〔氏名印〕</p>		<p>〔何〕裁判所</p> <p>〔氏名印〕</p>	<p>受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由</p> <p>送達シタル月日時</p> <p>送達シタル場所</p> <p>親屬雇人若クハ戸長ヘ書類ヲ渡シタル時ハ其事由</p>
<p>右致送達候也</p> <p>使丁</p> <p>〔氏名印〕</p>		<p>此ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ</p>	

割印

<p>〔住所身分職業〕</p> <p>〔氏名〕</p> <p>右〔云々〕ノ事件ニ付証人トシテ相尋ル儀有之來ル〔何月日時何〕所ニ出頭可致者也</p> <p>何同日出頭セサルコト於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ</p> <p>明治年月 日</p> <p>〔何〕裁判所</p> <p>豫審判事</p> <p>書記</p> <p>〔氏名印〕</p>		<p>呼出狀</p> <p>此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出スヘシ</p>	<p>受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由</p> <p>送達シタル月日時</p> <p>送達シタル場所</p> <p>親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由</p>
<p>右之通取扱候也</p> <p>明治年月 日</p> <p>使丁</p> <p>〔氏名印〕</p>		<p>是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ</p>	

割印



召喚狀

五十四

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之〔何月日時〕當裁判所ニ出頭可致者也

明治年月日

〔何裁判所之印〕

豫審判事 〔氏名印〕  
書記 〔氏名印〕

右之通取扱候也

明治年月日

使丁 〔氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ書記局へ還納ス可シ

割印

〔檢事官印〕 勾引狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサルハハ容體格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治年月日

〔何裁判所之印〕

豫審判事 〔氏名印〕  
書記 〔氏名印〕

勾引シタル被告

人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ

其事由

執行シタル月日

執行シタル場所

執行ノ手續

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其由

勾引スルノ能ハサル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治年月日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

割印

五十五

〔檢事官印〕 勾 留 狀

〔住所身分職業〕

〔氏 名〕

〔若シ氏名分明ナラサル  
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ件ニ付治罪法第二百二十六條ノ規則ニ從ヒ〔何所〕監倉ニ勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可

明治 年 月 日

〔何裁判  
所之印〕

〔何〕裁判所 豫審判事〔氏名印〕

書 記〔氏名印〕

割 印

五十六

勾留シタル被告 人ノ署名捺印若 シ能ハサル時ハ 其事由	執行シタル月日	執行シタル場所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ 下付ス〕	家宅搜索ヲ爲シ タル時ハ其由	勾留スルノ能ハ サル時ハ其事由
--------------------------------------	---------	---------	-----------------------------	-------------------	--------------------

右之通取扱候也

明治 年 月 日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

是ヲ中断シ一葉ヲ受取人へ渡シ  
一葉ヲ書記局へ還納スベシ

〔檢事官印〕 收 監 狀

〔住所身分職業〕

〔氏 名〕

○未遂犯ニ付減等○〔氏 名〕  
未丁年ニ付減等○

〔若シ氏名分明ナラサル  
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本  
罪刑法第〔何〕條ニ該ル可キ者ト思料ス依  
テ檢事ノ意見ヲ聽キ〔何所〕監倉ニ收監ス  
可キ者也  
但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可

明治 年 月 日

〔何裁判  
所之印〕

〔何〕裁判所 豫審判事  
書 記〔氏名印〕

割 印

收監シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサル 時ハ其事由	執行シタル月日	執行シタル場所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ 下付ス〕	家宅搜索ヲ爲シ タル時ハ其由	收監スルノ能ハ サル時ハ其事由
--------------------------------------	---------	---------	-----------------------------	-------------------	--------------------

右之通取扱候也

明治 年 月 日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

是ヲ中断シ一葉ヲ受取人へ渡シ  
一葉ヲ書記局へ還納スベシ

五十七

明治年月日

追加

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカルベシト有之候得共其裁判所々屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡無効ノ限リニ在ラス

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署十五年第一號布告ニ係ル)

第十章 檢証及ヒ物件差押  
司法官吏ヨリ巡査及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ

此旨相違候事(太政官第八十二號達ニカハル)

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢証及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會

シテ巡査又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

但時機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢証及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合直ニ巡査ヲ同行シ又ハ所在ノ巡査ヲ使用スル儀モ可有之候條豫テ可達置此旨相違候事(司法省丙第十五號達ニカハル)

第十一章 臨檢並訊問囑託

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得(太政官第四十六號布告第六項ニカハル)

第十二章 責付

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告

候事(大政官第四十七號布告ニカ、ル)

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出スルハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

第十三章 被告人  
大審院諸裁判所々屬代理人規則別紙之通相定候條此旨布達候事(司法省甲第八號布達ニカ、ル)

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代理人ヲ云フ

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辯護人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラザレハ之ヲ辭スルヲ得ヌ

第三條 代官又ハ辯護受任中代官免許満期ニ至リ引續キ營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代官辯護ヲ擔當スヘシ

第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クヲ得ヌ

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルヲ許サヌ

第十四章 裁判官渡書ノ原本返書  
治罪法第三百十五條裁判官渡書ノ原本又ハ其返書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事(司法省甲第七號布達ニカ、ル)

本年(本月)甲第七號布達裁判言渡ノ贖本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀  
無資力ニシテ上納スル能ハザル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀  
ト可心得此旨相達候事(司法省丁第三十一號達ニカ、ル)

第十五章 違警罪ニ關スル變則

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已  
ムヲ得ザル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ總  
テ上訴ヲ許サス此旨布告候事(太政官第四十四號布告ニカ、ル)

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ  
内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス  
右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿署名第六十四號布告ニカ、ル)

第十六章 控訴上告費用豫納

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ証人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候  
條此旨布告候事(太政官第四十五號布告ニカ、ル)

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者  
アル時ハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシ  
ムヘシ若シ豫納スルコト能ハサル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス  
豫審又ハ公判ニ付証人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判所ニ於テ其  
旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシム  
若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ  
制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置ヘシ  
治罪法第四百六十二條第二項罰金科料裁判費用及沒收物品ノ徵收ハ  
書記局ニ於テ擔當シ會計主任ヘ引度ス儀ト可心得此旨相達候事(司法  
省丁第二十五號達ニカ、ル)

第十七章 無能力者代人。民事擔當人

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル  
者ハ左ノ通

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第七十三號布告ニカ、ル) 無能力者

- 一 未丁年者トシイタクナキモノ
  - 二 妻タル者
  - 三 白痴癡癩人はくちあほうにん
  - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
  - 二 夫タル者
  - 三 白痴癡癩人ノ保管者
  - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人

一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

二 夫タル者

三 白痴癡癩人ノ保管者

四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

第十八章 變則雜輯

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セズ

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第七十四號布告ニ係ル)

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラヌ仍ホ従前ノ規則ニ從ヒ處分スベシ

右奉 勅旨布告候事(太政大臣司法卿連署第八十二號布告ニ係ル)

明治十五年三月廿一日御届  
同年四月六日出版

●三拾●

傍訓兼  
出版人

東京府平民

池部活三

東京日本橋區馬喰町  
二丁目一番地

東京府平民

發兌  
石川治兵衛

東京日本橋區馬喰町  
二丁目一番地

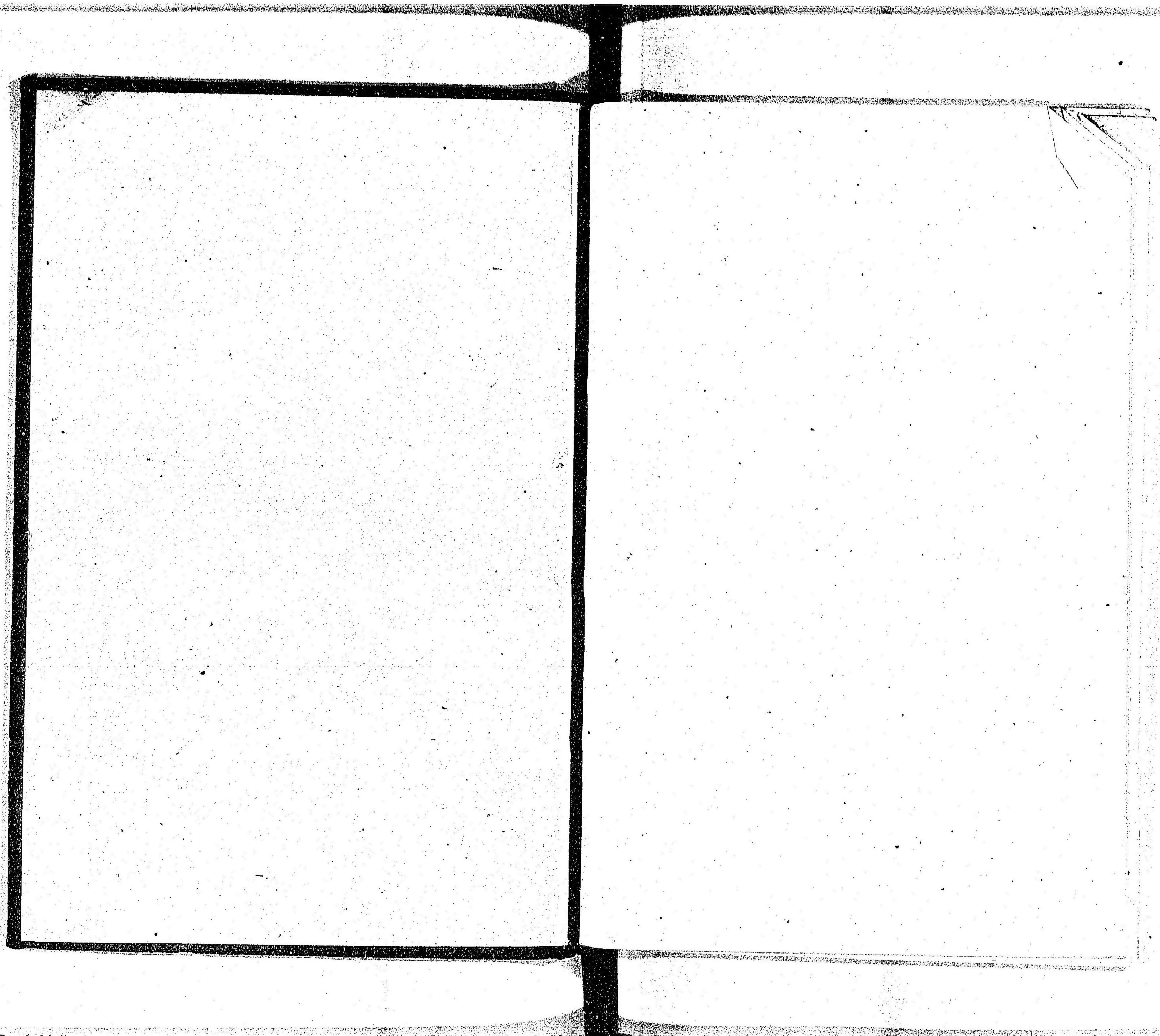
民國十一年六月廿四日

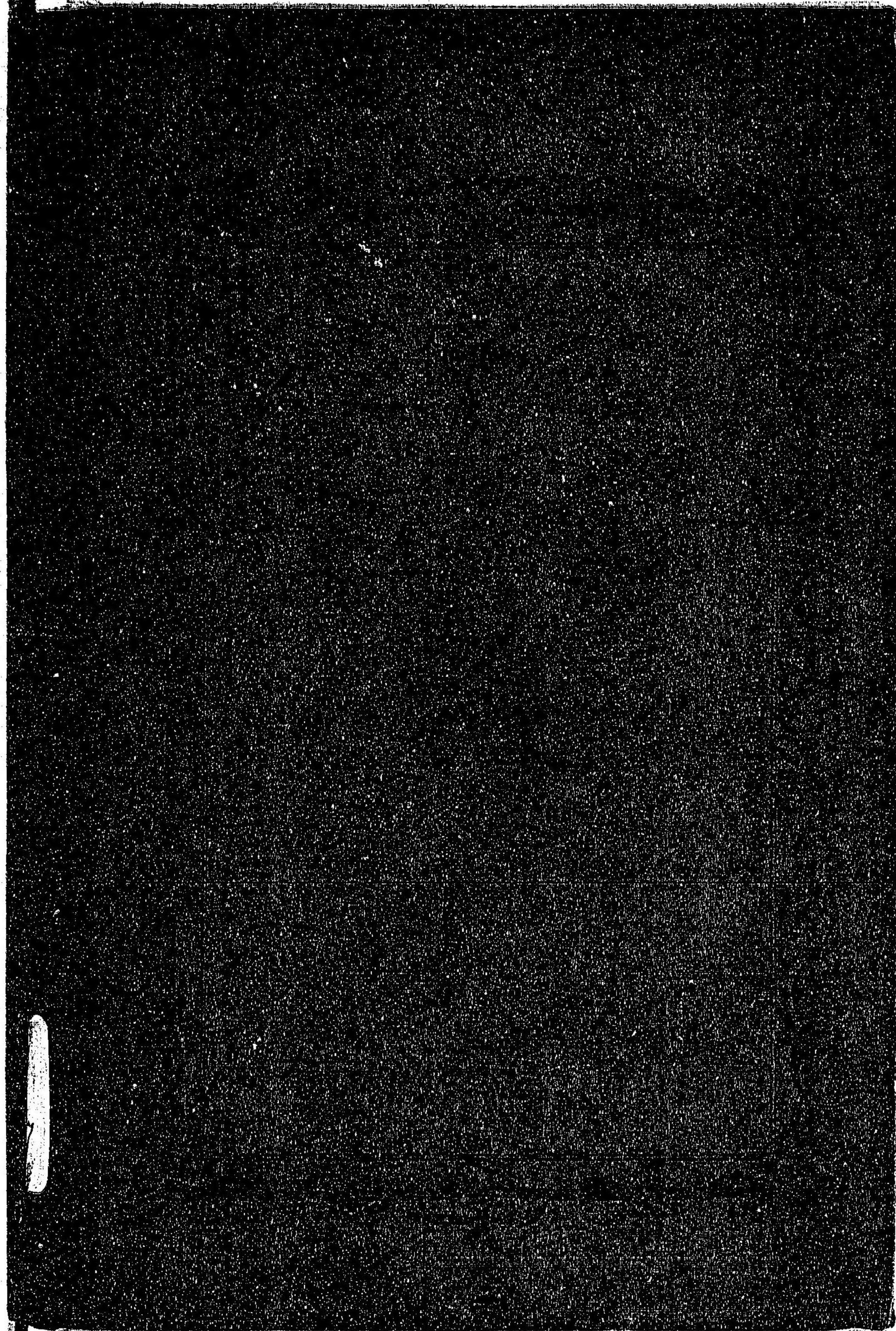
中華民國十一年六月廿四日

中華民國十一年六月廿四日

中華民國十一年六月廿四日







70  
18

036749-000-0

特16-357

現行治罪法俗解

池部 活三/訓

M15

BBS-0183

